

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
食 育	<p>重点目標</p> <p>望ましい食習慣を身に付けた子どもの育成</p> <p>手段</p> <p>1 正しい箸の持ち方ができる子を増やす。</p>	<p>1について</p> <p>正しい箸の持ち方の定着を図る。(80%)</p>	<p>1について</p> <p>(1) 正しい箸の持ち方についての実態把握</p> <p>(2) 日常及び指導週間における指導の徹底(鉛筆の握り方指導も同時に実施)</p>	3	3	<p>1について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「正しいはしの持ち方で、食事をしていますか。」の問いに対して78%が肯定的な意見、保護者のアンケートによると73%が肯定的な意見、職員のアンケートによると58%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 1月の給食感謝週間の際に、「はしの持ち方指導週間」を実施し、各学年「チェック表」を元にチェックを行ったり、参観日や通信等で保護者への啓発等の取組を行った。鉛筆の持ち方は、1月現在で、平均66%である。今後も継続的に指導していきたい。</p>
	<p>2 適量を残さず食べる子を増やし、肥満傾向児童減少と残食0%を目指す。</p>	<p>2について</p> <p>肥満傾向児童の減少させる。(10%未満)</p> <p>残食の減少させる。</p>	<p>2について</p> <p>(1) 食に関する実態把握</p> <p>(2) 担任、栄養教諭等による食生活に関する学級全体並びに個人への指導と称賛</p>	3		<p>2について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「給食は、残さずに食べていますか。」の問いに対して86%が肯定的な意見で、職員のアンケートでは、75%が肯定的な意見であった。</p> <p>○ 保護者のアンケートによると「家庭で、残さずに食べていますか。」の問いに対して81%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 肥満傾向の児童は23.4%であった。給食の残食は2月現在で1.6%である。本校の規模を考えるとほとんど残食は出ていない状況と言える。</p>
	<p>3 健康な歯の子を増やす。</p>	<p>3について</p> <p>新たなむし歯の抑制とむし歯治療率の向上(治療率80%)を図る。</p>	<p>3について</p> <p>(1) 歯科検診結果の集約</p> <p>(2) 歯磨き指導の徹底と治療勧告の継続</p>	2		<p>3について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「朝・昼・晩と毎日歯みがきをしていますか。」の問いに対して86%が肯定的な意見であり、保護者のアンケートでは、81%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 小林小学校の1月現段階のむし歯の治療率は47.3%である。各学級における保健指導や保健便り等での啓発、医療券の配付等も継続的に行っているが、目標値には達していない。保護者への啓発の仕方等も今後は更に工夫していく必要がある。</p>

次年度の方向性についての校長所見	<p>1 本年度の取組について 学校経営ビジョンに「知育」、「徳育」、「体育」、「食育」に係る4つの重点目標と12の目標達成のための手段を設定し、指導の重点化を図りながら、取組を進めてきた。</p> <p>成果としては、「分かる・できる」を実感する「ユニバーサルデザインの考え方を活かした授業の工夫」の研究が今年で3年目となり、焦点化やスモールステップ化、視覚化等のユニバーサルデザインの視点を取り入れた日々の授業改善の成果が徐々に見られるようになっていく。また、「いじめ・不登校」や「特別支援教育」への問題対応も関係機関との連携を図りながら組織的な対応ができており、少しずつ改善できている。さらに、給食の残食も1%台を維持しており、栄養教諭を中心とした食育指導の成果だと言える。</p> <p>2 次年度への改善に向けて 「知育」については、まずは、児童一人一人が「分かる・できる」を実感できる授業に更に磨きをかけていく。そのためには、職員一人一人の授業力向上のための研修を充実させるとともに、児童一人一人に応じた個別指導を工夫・改善していく。また、新学習指導要領の全面実施に伴う対応も全職員で進めていく。</p> <p>「徳育」については、児童一人一人の心に寄り添った指導の充実を目指し、児童の実態を把握しながら全職員が共通理解、共通実践するとともに、関係機関とも連携を図りながら取組の充実を図っていく。</p> <p>「体育」については、本年度作成した体力向上プランを次年度当初に共通理解し、体育の時間の指導方法の工夫を図ったり、日常の体力向上に向けた取組の充実を図ったりしながら、全校として確実に共通実践する。</p> <p>「食育」については、箸の持ち方の指導や残食の指導、肥満傾向児童への指導等を給食の時間を中心としながら、栄養教諭と学級担任が連携して指導を行うとともに、家庭と連携した取組を更に充実させていく。むし歯治療については、家庭への啓発を根気強く行うとともに、治療率の向上のための手立てをさらに模索していきたい。</p>
------------------	---